



香りア・ラ・カルト



梅栄堂
香りの文献

世界中で愛される芳しい香り

■珈琲(コーヒー)

脳に働きかける香りの効用が話題を集めています。イスラムの名医ラーゼスが初めてコーヒーを「胃に効く薬」として記したのが、今から約千年前のこと。飲み物として歴史に登場するのは一二六〇年、イエメンの僧オマルが山で見つけた「赤い実」の煮汁を人々に与えたのが始まりと言われています。その後コーヒーは一六六〇年、オランダの商人がイエメンのモカから輸入し、はじめヨーロッパに伝えられました。赤道をはさんで南北二十五度の地帯はコーヒーベルトと呼ばれ、コーヒーの栽培が盛んですが、その生産地により、香りや味わいにそれぞれの個性があります。コーヒーの木は栽培に適した場所では種を蒔いて約三年で収穫が可能です。成長するとジャスミンに似た香りの良い、白い花を咲かせます。この頃のコーヒー園では、素

晴らしい香りがあたり一面に漂うと言われています。白い花の命は二、三日と短く、受粉すると数カ月後には硬い緑色の実が出来ます。この実はやがてチェリーピーと呼ばれるように真っ赤に熟します。その後収穫されたコーヒーの実は、皮と果肉を取り除き、グリーンコーヒーと呼ばれる生豆の状態になります。精製された生豆は各地に輸出され、それぞれの国で焙煎されてコーヒー豆になります。さて、コーヒーの効用としてカフェインによる覚醒作用があることは誰もが知っていますが、最近コーヒーの「香り」そのものにも様々な効用があることが話題になっています。杏林大学医学部の古賀良彦教授の論文によると、コーヒーの香りは、リラクゼーション時に出現するアルファ波を出現させる効果を持つという他に、右脳の血流量を増やし、脳の働きを活性化するという、二つの働きを持っているという実験結果が発表されています。梅栄堂のコーヒーの香りのお線香「残香飛」は、発売以来大好評いただいておりますが、「飲んでよし、香ってよし」のコーヒータ임을ゆっくりと楽しみたいものです。

●話題

F M放送 NORTH WAVE
ACTIVE LINE

同放送ではコーヒールンバのメロディーが流れた後、今爆発的な人気が出ているとして、話題の線香「残香飛」について中田社長がインタビューを受け、「コーヒー好きの故人にコーヒーを供える人が多い」と言うことをヒントに始まった「残香飛」の誕生のエピソードや、第二弾の商品構想などについての質問に答えました。

MBS ニュースワイド・アングル情報ピリカラのコーナーでは、創業三十四十五年の伝統がある梅栄堂が、斬新な線香「残香飛」を発売するに至るまでの、社内での賛否両論やヒットの様子、またコーヒーの香りの薬効などについてお話をさせて頂きました。

文化放送「二期香」



「吉田照美のやる気MAN MAN」では最先端情報として梅栄堂の「二期香」が取り上げられ、「甘くソフトなイチゴの香りで、煙もひかえめ。フルーツ好きには特別にお勧め!」と紹介されました。

朝日新聞「ブームの卵」朝日新聞東版「東京マリオン」の情報コーナー「ブームの卵」では、現在ブレイク中の商品として「二期香」が掲載されました。優良企業の人事戦略

朝日新聞西版では、「関西の優良有望企業の人事戦略」と題して特集。事業戦略としては「伝統を守りつつ、更なる飛躍を目指す」、また人事戦略としては「様々な年齢層に需要を広げるために、

開発力、営業力の強化を図りたい」といった方針が中田社長の言葉で紹介されました。多方面な雑誌に登場

「ジバシムニュース」など多方面の雑誌で、梅栄堂本社や各商品についてのご紹介をいただきました。

●新商品紹介

香りのハフエティを先様に。

■新贈答用詰合せ 紙箱

いよいよ夏本番の季節になってまいりました。これからの季節にふさわしいご贈答用セットをご案内させて頂きます。ひとつは、さわやかな香りのお線香を集めました詰合せ。もうひとつは話題のお線香「残香飛」を中心に詰め合わせたセットでございます。お盆をはじめ、先様へのお届け物としてぜひご利用いただきますよう、よろしくお願いたします。

- 残香飛
- ラベンダーさわやか
- ローズさわやか
- ローズさわやか
- ローズさわやか
- 好文木



●標準小売価格 2,100円(本売価格 2,000円)

(各号の表紙)ノヴセンカスラ